

獣医学教育評価 自己点検・評価ワークシート

＜申請獣医学課程用（様式例）＞

【申請獣医学課程 基本情報】

大学・学部・学科名	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科
大学・学部・学科英語名	XX university Faculty of Veterinary Medicine Department of veterinary medicine
学位名称	学士(〇〇)
定員	入学定員:〇名、収容定員:〇名

大学・学部・学科名	〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科
大学・学部・学科英語名	XX university Faculty of Veterinary Medicine Department of veterinary medicine
学位名称	学士(〇〇)
定員	入学定員:〇名、収容定員:〇名

自己点検・評価ワークシートを作成する際の注意事項

序章

- ・当該獣医学教育組織の全般的な特徴、点検・評価の体制等について記述すること。

本章

<自己評価>

- ・「獣医学教育に関する基準」（資料1）の各「評価の視点」を確認し、「判断の目安」に基づき、現在の取組み状況に該当する、もしくは最も近い評点を選択すること。

<現状の説明、点検・評価>

- ・各「評価の視点」に基づき、当該獣医学教育組織における具体的な取組みの状況や<自己評価>の理由、点検・評価の結果明らかになった長所・特色、検討課題及び改善が必要な点や改善に向けた方策などについて項目ごとに記載すること。その際、「基準」の「本文」を踏まえて基準の趣旨を理解することが必要である。また、評価委員が読んで、当該大学・学部の状況を具体的なイメージを持って把握し、評価できるか、ということを念頭におき、根拠に基づく実証的な記述にすること。
- ・記述にあたっては、その論拠を明確にするため可能な限り客観的なデータ（数値）を記載すること。なお、基本情報データ集の数値を用いる場合、その数値と齟齬がないように注意すること。
- ・共同教育課程として行っている再大学に共通する事項の記載欄（共通）と、各大学の固有の事項を記載する欄（A大学及びB大学）を設けているが、「評価の視点」の性質に応じ、共通のみ、あるいはA大学及びB大学のみ記載としてよい。共通には、上記のとおり共同教育課程として行っている事項のみ記載し、単に状況が共通する内容は各大学の欄において記載すること。また、共通と各大学の欄の記載は、できる限り内容の重複がないようにすること。

<根拠資料>

- ・現状の説明の根拠となる資料、参照すべき資料名と該当ページを記すこと。なお、「提出資料一覧」（様式5）に記載のある資料については、必ず提出するとともに、可能な限り根拠資料として使用すること。
- ・ウェブサイト上の資料を根拠とする場合は、資料名とともに URL を記載し、リンクをオンにしておくこと。

終章

- ・全体を通して、点検・評価を行った結果、当該獣医学教育組織が考える今後の展望と、今後取り組むべき課題について記述すること。
- ・本章の記述と重複してもかまわない。

序 章

- (1) 獣医学教育（学士課程）の概要、これまでの自己点検・評価活動及びそれらの結果を受けて講じた教育の改善・向上の概要等

本章

1 使命・目的

・項目:使命・目的

評価の視点 1-1		評価のポイント
獣医学教育（学士課程）の使命・目的及び当該獣医学教育（学士課程）を設置する大学の理念・目的を踏まえ、養成すべき人材像を明らかにした獣医学教育（学士課程）の目的を独自に設定していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学教育（学士課程）として独自に目的を設定しているか ・獣医学教育（学士課程）の目的における養成すべき人材像の明確性と適切性 ・設置する大学の理念・目的との関連性
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	
3	3	

評価の視点 1-2		評価のポイント
獣医学教育（学士課程）の目的を教職員及び学生に周知し、かつ広く社会一般に公表していること。		・目的の周知・公表方法
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	
3	3	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 1-1～1-2 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

(例)

共通

A大学の教育理念・人材養成の目的及びB大学の基本理念や教育目標に基づき、共同教育課程がとして、養成する人材像として「○○○○○○を備えた人材」等○点を定めている（評価の視点 1-1、A大学及びB大学の共同獣医学科部ホームページ）。

上記の養成する人材像は、共同獣医学科のホームページにて社会に公表している。また、各大学で年度末に実施する教職員・学生を対象としたアンケートにおいて、周知活動の状況とその効果を把握する設問を設けており、アンケートの結果を両大学の代表者が参加する「○○○○委員会」において共有し、必要に応じて見直しを行っている（評価の視点 1-2、添付資料 1-1-1）。

以上のことから、評価の視点 1-1 及び 1-2 については、評価の視点を満たしているといえる。

A大学

大学の教育理念を「○○○○○○」と定め、学部又は学科ごとに人材養成の目的を『A大学学則』（添付資料 1-2-1：第○条）に規定している。そのうえで共同獣医学科においては、人材養成の目的を「△△△△」と定めている（評価の視点 1-1）。

共同獣医学科の人材養成の目的及び共同獣医学課程として2大学が共通で定める養成する人材像については、学生便覧（添付資料 1-2-2）や共同獣医学科部ホームページにおいて公表している。目的の周知活動の状況とその効果を把握するため、毎年度末に教職員・学生を対象にアンケートを実施している（評価の視点 1-2 添付資料 1-2-3）。

~~このアンケートの結果については、学科会議において共有している（評価の視点 1-2）。~~

B大学

大学の教育理念を「○○○○○○」と定め、学部又は学科ごとに教育目標を『B大学学則』（添付資料 1-3-1：第○条）に規定している。共同獣医学科において定める教育目標は、A大学と共通する養成要請する人材像に、独自に「○○○○」という内容を独自に加え、定めている（評価の視点 1-1）。

共同獣医学科の人材養成の目的及び教育目標については、毎年教職員及び学生に配付する履修要項（添付資料 1-3-2）や共同獣医学科部ホームページにおいて公表している。また、新入生を対象に4月に開催する「新入生オリエンテーション」においても説明している（評価の視点 1-2、添付資料 1-3-3）。目的の周知活動の状況とその効果を把握するため、毎年度末に教職員・学生を対象にアンケートを実施し、学部教授会において検証している（添付資料 1-3-4）。

<根拠資料>

共通

- ・添付資料 1-1-1：第 XX 回〇〇〇〇委員会議事録
- ・~~A大学・B大学~~共同獣医学科部ホームページ (<http://www.abc.ac.jp/xxxx>)

A大学

- ・添付資料 1-2-1：A大学学則（第〇条）
- ・添付資料 1-2-2：学生便覧（〇～〇頁）
- ・~~添付資料 1-2-3：年度末アンケート（様式）~~
- ・~~A大学〇〇~~学部ホームページ (<http://www.xxx.ac.jp/xxxx>)

B大学

- ・添付資料 1-3-1：B大学学則（第〇条）
- ・添付資料 1-3-2：履修要項（〇～〇頁）
- ・添付資料 1-3-3：新入生オリエンテーション資料
- ・~~添付資料 1-3-4：年度末アンケート（様式）~~
- ・~~〇〇~~学部ホームページ (<http://www.xxx.ac.jp/xxxx>)

2 教育の内容・方法・成果

・項目:学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針

評価の視点 2-1		評価のポイント
獣医学教育（学士課程）の目的に基づき、修得すべき知識・技能・態度など期待する学習成果を明示した学位授与方針を策定していること。また、これを踏まえて教育課程の体系、教育内容、授業科目区分、授業形態等を明示した教育課程の編成・実施方針を策定していること。		<ul style="list-style-type: none"> • 学位授与方針の策定 • 学位授与方針における修得すべき知識・技能・態度など（臨床能力を含む）期待する学習成果の明示 • 教育課程の編成・実施方針の策定 • 教育課程の編成・実施方針における教育課程の体系、教育内容、授業科目区分、授業形態等の明示 • 獣医学教育（学士課程）の目的と学位授与方針の整合性 • 学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の整合性
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-2		評価のポイント
学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を教職員及び学生に周知し、かつ広く社会一般に公表していること。		<ul style="list-style-type: none"> • 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の周知・公表方法
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-1～2-2 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:教育課程の編成

評価の視点 2-3	評価のポイント
<p>教育課程の編成・実施方針に基づき、次に掲げる事項を踏まえ、獣医師として求められる基本的な知識・技能・態度を養成するための教育課程を体系的に編成していること。</p> <p>(1) 獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容を網羅したコア科目を適切に配置していること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 教育課程の編成・実施方針に沿った適切な授業科目の体系的な配置 • モデル・コア・カリキュラムの内容を網羅したコア科目の編成とその適切性 • アドバンスト科目の編成とその適切性 • 獣医師育成に向けた各大学の特色ある講義・実習 • 学生自らが課題を探求し解決する能力、課題解決の過程と結果を社会に対

<p>(2) 獣医学教育（学士課程）の目的に基づいたアドバンスト科目を適切に配置していること。</p> <p>(3) 獣医師としての資質を涵養するために特別研究（卒業研究）を課していること。</p> <p>(4) 獣医師の社会的責務を体得させ、実地教育の一層の充実を期するために実地研修（インターンシップ）を課していること。</p>	<p>し論理的に説明する能力などの獣医師としての資質の涵養に配慮した特別研究（卒業研究）の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> • 獣医師の社会的責務を体得させ、実地教育の一層の充実を期することを意識した実地研修（インターンシップ）科目の設定 • 適切な時間割の設定
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表1、表2、表3
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点2-3について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:教育の実施

評価の視点 2-4		評価のポイント
教育課程を実施するにあたって、効果的な授業形態や方法が用いられていること。		<ul style="list-style-type: none">・講義、実験、演習、実習など科目に応じた授業形態・アクティブラーニング講義、問題基盤型学習（PBL）、体験学習、実験、総合参加型臨床実習、インターンシップ、海外派遣、遠隔授業やWEBを活用した学習、研究室配属、学会等での研究発表など、多彩な教育方法の採用・共同教育課程においては、遠隔講義、学生移動、教員移動など教育方法の工夫とその効果
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-5		評価のポイント
教員の監督・指導のもと、適正に実習を実施していること。		<ul style="list-style-type: none">・受講者数に対して適正な数の教員の配置・TA・SAの配置
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表4	

自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-6		評価のポイント
動物死体を活用した解剖学教育及び病理学教育を適正に実施していること。		<ul style="list-style-type: none"> 動物種（小動物、産業動物、鳥類等）ごとの実施状況 解剖学教育及び病理学教育における代替法の利用とその効果
判断の目安（解剖学教育）		
4：適正な割合 ^{*1} で、牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）の全ての動物種の死体について解剖学実習を実施している。 かつ、一部または全ての動物種で代替法を利用している。		
3：適正な割合 ^{*1} ではないが、牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）のうち全ての動物種の死体について解剖学実習を実施している。 かつ、一部または全ての動物種で代替法を利用している。		
2：牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）のうち4つまたは3つの動物種の死体について解剖学実習を実施している。 代替法は利用していない。		
1：牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）のうち2つ以下の動物種の死体について解剖学実習を実施している。 代替法は利用していない。		
備考	※1 適正な割合（受講生数／動物数）： 産業動物：0.05 頭以上／受講生、 小動物：0.1 頭以上／受講生、 鳥類：0.2 羽以上／受講生	
	関連するデータ：基本情報データ集 表5	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	
判断の目安（病理学教育）		
4：適正な割合 ^{*2} で、牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）の全ての動物種の死体について病理学実習を実施している。		
3：適正な割合 ^{*2} ではないが、牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）の全ての動物種の死体について病理学実習を実施している。		
2：牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）のうち4つまたは3つの動物種の死体について病理学実習を実施している。		
1：牛（または羊か山羊）、馬、豚、鶏、犬（または猫）のうち2つ以下の動物種の死体について病理学実習を実施している。		
備考	※2 適正な割合：	

産業動物：0.2頭以上／受講生 小動物：0.1頭以上／受講生 鳥類：0.2羽／受講生	
関連するデータ：基本情報データ集 表6	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-7	評価のポイント
学生が授業科目を体系的に履修できるよう、履修指導を適切に行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> • 学生に対する履修指導の体制 • 適切な履修指導に向けた取組み（例えば、カリキュラムマップの策定など）
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-8	評価のポイント
授業の目的、到達目標及び授業概要等が明示されたシラバスを作成し、それに基づいた授業を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> • 適切な内容で構成されたシラバスの整備及び明示（総合参加型臨床実習用のシラバスを含む） • シラバスの記載内容を改善する仕組み • 授業内容とシラバスとの整合性の確保
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-4～2-8 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:総合参加型臨床実習体制の整備

評価の視点 2-9		評価のポイント
総合参加型臨床実習の管理運営体制が整備されていること。		<ul style="list-style-type: none">総合参加型臨床実習の管理運営体制総合参加型臨床実習に関するマニュアルの整備飼い主への説明と同意書の取得
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 2-10	評価のポイント
------------	---------

<p>総合参加型臨床実習の指導教員の条件が明示され、必要な教員が配置されていること。また、必要な病院専任獣医師、研修獣医師、動物看護師等の支援スタッフが配置されていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総合参加型臨床実習の指導教員の要件（例えば、臨床経験年数や専門性など）の明確化 総合参加型臨床実習を担当している指導教員数及び臨床教員、病院専任獣医師、支援スタッフ（研修獣医師、愛玩動物看護師）等の数
<p>判断の目安</p>	
<p>3：評価の視点を満たしている。</p>	
<p>2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。</p>	
<p>1：評価の視点を満たしていない。</p>	
<p>備考</p>	<p>関連するデータ：基本情報データ集 表7</p>
<p>自己評価（A大学）</p>	<p>自己評価（B大学）</p>
<p></p>	<p></p>

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-9～2-10 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

・項目:臨床能力向上のための教育

評価の視点 2-11		評価のポイント
臨床実習開始前に学生の知識・技能・態度の評価を行い、総合参加型臨床実習を行う学生の質の担保を図っていること。		<ul style="list-style-type: none"> 総合参加型臨床実習開始前に達成すべき基本的知識・技能・態度の到達目標の設定とその評価 総合参加型臨床実習開始前の共用試験（vetCBT、vetOSCE）の利用 総合参加型臨床実習に参加する学生の共用試験合格状況の確認
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-12		評価のポイント
患畜の安全に配慮しつつ、臨床能力の向上のための教育カリキュラムを整備していること。		<ul style="list-style-type: none"> 患畜の安全への配慮 総合参加型臨床実習の内容 総合参加型臨床実習の形態
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-13	評価のポイント
------------	---------

<p>附属獣医学教育病院等において、総合参加型臨床実習等のために十分な数の患畜（症例）を診察していること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学生1人あたりの症例数、ハンズオン実習として係わった症例数等に配慮した実習時間の設定・実施 • 十分な症例数を経験できなかった際の補完教育の実施
<p>判断の目安</p>	
<p>4：学内診療において、適正な割合^{※3}で、産業動物及び小動物の症例を用いた十分な参加型臨床実習を実施している。</p>	
<p>3：学外診療機関との連携も加えて、適正な割合^{※3}で、産業動物及び小動物の症例を用いた十分な参加型臨床実習を実施している。</p>	
<p>2：学外診療機関との連携も加えて、適正な割合^{※3}で、産業動物及び小動物のいずれかにおいて、十分な参加型臨床実習を実施している。</p>	
<p>1：学外診療機関との連携も加えた場合においても、適正な割合^{※3}で、産業動物及び小動物の参加型臨床実習を実施していない。</p>	
<p>備考</p>	<p>※3 適正な割合 産業動物：10 症例／受講生 小動物：20 症例／受講生 関連するデータ：基本情報データ集 表8</p>
<p>自己評価（A大学）</p>	<p>自己評価（B大学）</p>
<p></p>	<p></p>

<p>評価の視点 2-14</p>	<p>評価のポイント</p>
<p>総合参加型臨床実習に際して、獣医療行為に関する教育が行われていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学生が行う獣医療行為に関するガイドラインの策定及びそれに基づく教育 • 学内・学外実習先の施設利用マニュアルの策定及びそれに基づく教育 • 個人情報保護等に関する講義やセミナーの実施及びその時期 • 実習に際しての学生の保険加入状況
<p>判断の目安</p>	
<p>3：評価の視点を満たしている。</p>	
<p>2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。</p>	
<p>1：評価の視点を満たしていない。</p>	
<p>自己評価（A大学）</p>	<p>自己評価（B大学）</p>

--	--

評価の視点 2-15		評価のポイント
卒業時の臨床能力が明示され、総合参加型臨床実習において修得した能力を評価するシステムを有し、臨床能力を担保していること。		・総合参加型臨床実習を通じて修得すべき基本的知識・技能・態度の到達目標の設定とその評価
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-11～2-15 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

・項目:成績評価・卒業認定

評価の視点 2-16		評価のポイント
成績評価の基準・方法を適切に設定し、あらかじめ学生に明示していること。		・シラバスや学部要覧等における成績評価基準・方法の明示
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-17		評価のポイント
設定された成績評価の基準・方法により、成績評価を公正かつ厳格に実施していること。		・予め設定した基準・方法に基づく公正かつ厳正な成績評価の実施 ・成績分布等を用いた成績評価の妥当性の検証
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 2-18		評価のポイント
進級判定基準を設定・明示し、適切な評価・判定を行っていること。		・進級判定基準の内容と周知方法 ・進級判定に係る関連委員会・教授会のプロセス及び判定実績 ・留年者及び退学者等の状況
判断の目安		

3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-19	評価のポイント
成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応する仕組みを整備し、かつ、学生に対して明示していること。また、その仕組みを適切に運用していること。	<ul style="list-style-type: none"> • 学生への成績評価の開示 • 学生からの成績評価に対する問い合わせ制度（不服申し立てを含む）の整備、周知、運用、実績
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-20	評価のポイント
学位授与方針に基づき、公正かつ厳格な卒業認定を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> • 修得すべき知識・技能・態度など期待する学習成果を踏まえた適切な卒業要件の設定 • 卒業要件の周知 • 卒業認定のプロセス及び実績 • 卒業認定における公平性・厳格性の担保
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-16～2-20 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:教育成果の検証

評価の視点 2-21	評価のポイント
学生の学習成果、卒業者の進路状況等を把握・分析し、教育上の成果を検証していること。	<ul style="list-style-type: none">• 学生の学習成果（修得すべき知識・技能・態度など期待する学習成果の達成状況）の把握・分析• 卒業生の進路及び活動状況（例えば、国家試験合格状況、大学院進学の状況等）の把握・分析• 把握・分析結果を踏まえた教育成果の検証
判断の目安（国家試験合格率）	

4：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対する獣医師国家試験合格者数が80%以上の年度が5回である。	
3：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対する獣医師国家試験合格者数が80%以上の年度が4回である。	
2：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対する獣医師国家試験合格者数が80%以上の年度が3回である。	
1：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対する獣医師国家試験合格者数が80%以上の年度が2回以下である。	
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表9
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）
判断の目安（進路状況）	
4：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対して獣医学に関連する進路先の割合が80%以上である年度が5回である。	
3：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対して獣医学に関連する進路先の割合が80%以上である年度が4回である。	
2：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対して獣医学に関連する進路先の割合が80%以上である年度が3回である。	
1：評価実施前年度までの5年間で、卒業者数に対して獣医学関連に関連する進路先の割合が80%以上である年度が2回以下である。	
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表9 ※「獣医学に関連する進路先」は、基本情報データ集 表9の「獣医関連業務への就職者数(A)」及び「進学者数(C)」が該当します。
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 2-22	評価のポイント
検証した結果を教育内容・方法の改善に活用していること。	・検証結果を活用したカリキュラムや教育内容・教育方法の改善事例
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

--	--

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 2-21～2-22 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

3 教育研究等環境

・項目: 獣医学教育の実施に必要な施設・設備

評価の視点 3-1		評価のポイント
獣医学教育の実施に必要な教育施設・設備を適切に整備していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・講義室、実習・実験室、研究室、スキルスラボ等の獣医学教育に必要な施設・設備の整備 ・談話室、自習室、コンピュータ室等の学生の自学自習に必要な施設・設備の整備
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 3-2		評価のポイント
獣医学教育及び研究に必要な学術情報資料を整備し、学生及び教員が適切に情報入手できるように対応していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の整備 ・獣医学教育及び研究に必要な学術情報資料の集積 ・効果的な利用の促進
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 3-3		評価のポイント
附属獣医学教育病院の施設・設備を総合参加型臨床実習等の教育に活用できるよう整備していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・診察室、処置室、検査室、入院室、カンファレンスルーム等の必要な施設・設備の整備 ・獣医学教育病院を活用した教育の実施状況 ・施設・設備が不足している場合の補完

		・ 卒後教育の場としての活用
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表 10	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 3-1～3-3 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:附属施設の整備

評価の視点 3-4	評価のポイント
獣医学教育（学士課程）の特徴を生かした施設を設置し、教育研究に活用していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門に特化した研修センター等（例えば、公衆衛生研修センター、野生動物臨床研修センター、毒性安全研修センター、獣医熱帯病研修センター等）の設置と利用状況 ・附属施設における研究等への学生の参画
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 3-4 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

・項目:各種実験・研究・診療活動に関する環境整備

評価の視点 3-5		評価のポイント
動物実験倫理・動物福祉に配慮した実験動物の飼養に関する施設・設備を整備していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・飼育室、準備室、保管・管理室など動物飼養施設の整備 ・飼育環境の適切な管理 ・動物実験計画の審査体制 ・動物実験に関わる者への教育訓練体制の整備と適切な実施
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表 11	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 3-6		評価のポイント
動物実験を行うにあたり、倫理・福祉に配慮した動物実験に関する学内規則・管理マニュアル等を整備し、監督指導する委員会を設置していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・動物実験に関する学内規則・管理マニュアル等の整備 ・動物実験を監督指導する委員会の設置と活動状況
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 3-7	評価のポイント
-----------	---------

<p>病原体等利用実験に関わる法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備し、監督指導する委員会を設置していること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 病原体等利用実験に関する学内規則・管理マニュアル等の整備 • 病原体等利用実験を監督指導する委員会の設置と活動状況
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 3-8		評価のポイント
<p>遺伝子組換え実験に関わる法律等に基づいた学内規則・管理マニュアル等を整備し、監督指導する委員会を設置していること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝子組換え実験に関する学内規則・管理マニュアル等の整備 • 遺伝子組換え実験を監督指導する委員会の設置と活動状況
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 3-9		評価のポイント
<p>研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規定を明文化し、適切な組織のもとでこれらを遵守するよう取り組んでいること。</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 研究倫理や研究・診療活動の不正防止に関する規程の整備 • 関連する委員会等の組織の設置と活動状況 • 研究倫理、不正防止の遵守に向けた取組み • バイオセキュリティ・マニュアルの整備
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		

自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 3-5～3-9 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目：国際性を踏まえた教育環境の整備

評価の視点 3-10	評価のポイント
国際感覚と社会的な教養を備えた獣医師を養成するための環境を整備していること。	・グローバル人材の育成に向けた取組み（例えば、海外の諸機関との連携、教育・研究成果の国際的な発信など）
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	

2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 3-10 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

4 学生の受け入れ・支援

・項目:学生の受け入れ方針、入学者選抜の実施

評価の視点 4-1		評価のポイント
学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受け入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等の判定方法等を明確にしていること。		<ul style="list-style-type: none"> • 学生の受け入れ方針の策定 • 学生の受け入れ方針における求める学生像、入学者に求める水準等の判定方法の明示
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 4-2		評価のポイント
学生の受け入れ方針に基づき、入学者の適性を的確かつ客観的に評価するための選抜方法・手続等を設定していること。		<ul style="list-style-type: none"> • 学生の受け入れ方針と入学者選抜方法の整合性 • 多様な人材に修学の機会を与える視点 • 入学者選抜における入学者の学力の担保
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 4-3		評価のポイント
学生の受け入れ方針や選抜方法・手続等をあらかじめ公表していること。		<ul style="list-style-type: none"> • 学生の受け入れ方針及び選抜方法・手続の募集要項やホームページ、説明会等を通じた公表方法
判断の目安		
3 : 評価の視点を満たしている。		
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1 : 評価の視点を満たしていない。		

自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 4-4	評価のポイント
入学者選抜を責任ある実施体制のもとで、適切かつ公正に実施していること。	<ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜の組織体制 入学者選抜の手続の明確化 入学者選抜の公正性を確保するための仕組み
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 4-1～4-4 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

・項目:定員管理

評価の視点 4-5		評価のポイント
入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理していること。		<ul style="list-style-type: none"> 以下の比率や動向を注視した適正な定員管理 <ul style="list-style-type: none"> ▶入学定員に対する入学者数比率 ▶収容定員に対する在籍学生数比率
判断の目安（入学定員に対する入学者数比率）		
3：過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均比率が0.90以上1.20未満である。		
2：過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均比率が0.80以上0.90未満又は1.20以上1.25未満である。		
1：過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均比率が0.80未満又は1.25以上である。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	
判断の目安（収容定員に対する在籍学生数比率）		
3：評価実施前年度の収容定員に対する在籍学生数比率が0.90以上1.20未満である。		
2：評価実施前年度の収容定員に対する在籍学生数比率が0.80以上0.90未満又は1.20以上1.25未満である。		
1：評価実施前年度の収容定員に対する在籍学生数比率が0.80未満又は1.25以上である。		
備考	関連するデータ：基本情報データ集 表12、表13	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点4-5について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:学生支援

評価の視点 4-6		評価のポイント
学生生活に関する相談・支援体制を整備し、適切に支援していること。		・獣医学教育(学士課程)の対象となる学生に対するカウンセリング等の相談・支援 ・学内外の実習等におけるハラスメント防止のための体制の整備・対応
判断の目安		
3: 評価の視点を満たしている。		
2: 評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1: 評価の視点を満たしていない。		
自己評価 (A大学)	自己評価 (B大学)	

評価の視点 4-7	評価のポイント
適切な支援体制のもと、学生の自主的な学習を促進させるよう取り組み、学生の能力	・予習・復習等の相談・支援 ・成績不振者への指導体制

に応じた補習・補充教育を実施していること。	・スキルスラボの活用
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 4-8	評価のポイント
適切な支援体制のもと、多様な学生が学習を行っていくための支援を実施していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある学生、留学生など多様な学生に対する修学支援 ・獣医学教育（学士課程）の対象となる学生に対する経済的支援
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

評価の視点 4-9	評価のポイント
適切な支援体制のもと、進路選択・キャリア形成に関する相談・支援を実施していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医学教育（学士課程）の対象となる学生に対する進路選択・キャリア形成に関する相談・支援
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 4-6～4-9 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A 大学

B 大学

<根拠資料>

共通

A 大学

B 大学

5 教員・教員組織

・項目:教員組織の編制

評価の視点 5-1		評価のポイント
獣医学教育（学士課程）を支える教員組織の編制方針を策定していること。		<ul style="list-style-type: none"> 教育課程との連動や教育研究を推進するうえで必要となる教員をどのように配置するかという考え方
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-2		評価のポイント
獣医学教育（学士課程）を支える教員組織の編制方針に基づき、教育研究活動の実施に必要な教員を分野ごとに適正に配置していること。		<ul style="list-style-type: none"> 編制方針に沿った教員の配置 教授、准教授、講師、助教の適切な比率と配置 各分野（導入・基礎、病態、応用、臨床（小動物・産業動物））への教員の適切な配置 総合参加型臨床実習に必要な資質・要件を持つ教員の配置
判断の目安		
3：すべての分野（導入・基礎、病態、応用、臨床（小動物・産業動物））の教員数が適正な範囲内 [※] にある。		
2：教員数が適正な範囲内 [※] にない分野がある。		
1：すべての分野（導入・基礎、病態、応用、臨床（小動物・産業動物））の教員数が適正な範囲内 [※] にない。		
備考	※適正な範囲： 導入・基礎分野：15～30%、病態分野：10～30%、応用分野：10～30%、 臨床分野（小動物・産業動物）：30～50%	
	関連するデータ：基本情報データ集 表 14、表 15、表 16	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-3		評価のポイント
コア科目及びアドバンスト科目を実施するにあたり、適正な担当者を配置していること。		<ul style="list-style-type: none"> コア科目及びアドバンスト科目への基幹教員の配置状況 教員の獣医師免許及び学位の保有状況 担当科目に関連する研究業績と専門経験（認定・専門獣医師資格等）を持つ教員の配置
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
備考	教員の獣医師免許保有率の目安：70%以上	
	関連するデータ：基本情報データ集 表 16	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-4		評価のポイント
学生数に対する教員の比率が適切であること。		学生数に対する教員の比率を踏まえた教育体制の適切性
判断の目安		
4：学生定員に対して必要な獣医学に関わる教員組織の教員数 [※] に対する割合が80%以上である。		
3：学生定員に対して必要な獣医学に関わる教員組織の教員数 [※] に対する割合が70%以上80%未満である。		
2：学生定員に対して必要な獣医学に関わる教員組織の教員数 [※] に対する割合が60%以上70%未満である。		
1：学生定員に対して必要な獣医学に関わる教員組織の教員数 [※] に対する割合が60%未満である。		
備考	※学生定員に対して必要な獣医学に関わる教育組織の教員数： ①学生30～35名：教員68名 ②学生40名：教員69名 ③学生60名：教員71名 ④学生80名：教員73名 ⑤学生120名：教員77名 ⑥学生140名：教員79名	
	関連するデータ：基本情報データ集 表 15、表 16	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-5		評価のポイント
持続可能性や多様性（性別、国籍等）に配慮して教員組織が適切に編制されていること。		・女性教員、外国人教員の比率、年齢構成等に対する配慮
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
備考	女性教員の占める適正な割合の目安：30%以上	
	教員の獣医師免許保有率の目安：70%以上	
関連するデータ：基本情報データ集 表 17		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-6		評価のポイント
獣医学研究を遂行し、将来の獣医学研究を担う人材育成に資する研究力を有していること。		<ul style="list-style-type: none"> ・研究に対する考え方（方針）の明示 ・研究成果の教育への活用 ・研究に対する社会的かつ客観的な評価
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-7		評価のポイント
教員の募集・採用・昇任を適切に行っていること。		<ul style="list-style-type: none"> ・教員の任用に関する規程の整備 ・教員人事の手続における透明性と適切性の担保
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		

自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 5-1～5-7 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:教員の資質向上等

評価の視点 5-8	評価のポイント
教員の資質向上を図るための体制を整備し、組織的な研修及び研究を定期的に行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> •教育内容・方法等の改善を目的とした研修及び研究（FD等*）を組織的に行う体制 •教育内容・方法等の改善を目的とした研修及び研究（FD等*）の活動実績

		※大学運営に係る教職員に対する研修（SD）、教育補助者（TA等）に対する研修などの仕組みを含む
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 5-9	評価のポイント
基幹教員の教育活動、研究活動、組織運営、社会との関係の形成・社会貢献等について、適切に把握・評価していること。	・教員の教育研究・組織運営活動及び社会貢献等に関する評価システムの構築・実施
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 5-8～5-9 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

6 自己点検・評価

・項目:自己点検・評価

評価の視点 6-1		評価のポイント
組織的な自己点検・評価に関する体制を整備していること。		・組織レベルでの自己点検・評価体制の構築
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 6-2		評価のポイント
教育研究活動について組織的・継続的な自己点検・評価を行っていること。		・組織レベルによる教育研究活動等に対する自己点検・評価の実施 ・定期的な自己点検・評価の実施
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

評価の視点 6-3		評価のポイント
学外の有識者による第三者評価を受けていること。		・機関別認証評価や法人評価、分野別評価（国際認証等）の第三者評価の申請と評価結果の受領
判断の目安		
3：評価の視点を満たしている。		
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。		
1：評価の視点を満たしていない。		
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）	

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 6-1～6-3 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取り組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取り組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:結果に基づく教育研究活動の改善・向上

評価の視点 6-4	評価のポイント
自己点検・評価及び第三者評価の結果を教育研究活動の改善・向上に結びつけていること。	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価及び第三者評価の結果に基づき、当該獣医学教育組織の教育研究活動に関する改善・向上を図るための計画の策定 上記計画の実行及び具体的な改善
判断の目安	
3 : 評価の視点を満たしている。	
2 : 評価の視点を概ね満たしているが、一部取り組みが十分ではない。	

1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点6-4について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

・項目:情報公開

評価の視点6-5	評価のポイント
自己点検・評価及び第三者評価の結果を含む獣医学教育（学士課程）に関するさまざまな教育情報について適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価及び第三者評価の結果の公表 説明責任を果たすための情報公開における工夫

	<ul style="list-style-type: none"> • 獣医学教育（学士課程）のウェブサイトの整備 • ウェブサイトの定期的な更新
判断の目安	
3：評価の視点を満たしている。	
2：評価の視点を概ね満たしているが、一部取組みが十分ではない。	
1：評価の視点を満たしていない。	
自己評価（A大学）	自己評価（B大学）

<現状の説明、点検・評価>

※評価の視点 6-5 について、評価のポイントを参照しつつ現状の取組み状況と自己評価の理由を以下に取りまとめてください。また、長所や特色として特記できる事項があれば、その内容と今後の発展方策を、現在の取組み状況に不足があれば、それに対する改善の計画についても言及してください。

共通

A大学

B大学

<根拠資料>

共通

A大学

B大学

終 章

(1) 自己点検・評価を振り返って

(2) 今後の改善方策、計画等について